

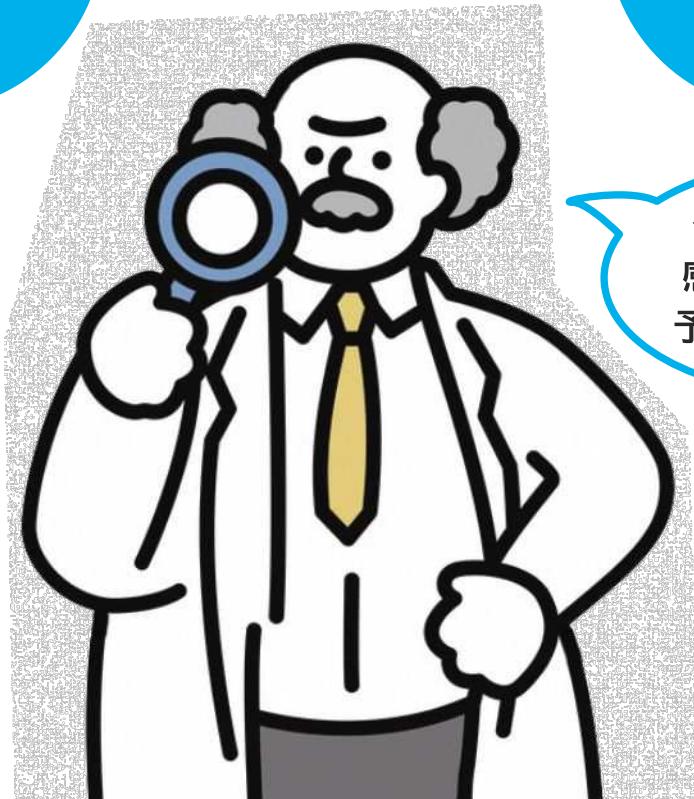
ダニが媒介する 感染症

重症熱性
血小板減少
症候群
(SFTS)

日本紅斑熱

つつが虫病

ダニが媒介する
感染症を知って、
予防しましょう！



ダニ類が媒介する感染症

ダニ類が媒介する感染症は多数ありますが島根県では特に、「重症熱性血小板減少症候群（以下、SFTS）」、「日本紅斑熱」および「つつが虫病」という感染症の患者が毎年発生し、その患者数は年々増加傾向にあります。

表：島根県で多いダニ媒介感染症と媒介するダニ類の関係

ダニ類	媒介する感染症
マダニ	日本紅斑熱、SFTS
ツツガムシ	つつが虫病

また、SFTS を引き起こす病原体（SFTS ウィルス）は、イヌやネコなどのペットにも感染します。感染したイヌやネコからヒトへ感染した事例も多く確認されていますので、ペットの感染予防も重要です。

ダニ媒介感染症は、発生件数が多い季節や症状などに特徴があります。これらを理解することで、感染・重症化予防につながります。

マダニ・ツツガムシについて

マダニ・ツツガムシは、家の中にいるイエダニやコナダニとは違い、野山など屋外に生息し、動物の血液などを吸血することで成長や産卵をします。このため、マダニ・ツツガムシは野生動物と接触する機会が多く、野生動物の体表に付着しています。

昨今、イノシシやシカ、アライグマなどの野生動物が田畠や自宅周辺に出没していることから、これらのダニ類がヒトの生活環境に入り込み、マダニなどに刺されるリスクが高まっています。

マダニ・ツツガムシに刺されないためには、マダニ・ツツガムシがどこに生息しているのか、どのような形態をしているのかを知ることが予防のために非常に重要ですので、以下の特徴を理解しましょう。

マダニ

- 体長 幼虫は1mm未満、成虫3mm～8mmのダニです。
- 野山に多く生息し、小型～大型の野生動物に幅広く寄生します。
- 住宅地であっても野生動物を見かける際は、生息している可能性があります。



写真1：フタトゲチマダニ 成虫

ツツガムシ

- 体長はとても小さく約0.5～0.8mmのダニです。
- 野山や河川敷、海沿いに生息し、主に野ネズミなどの小型の野生動物に寄生します。



写真2：ツツガムシ 幼虫

※マダニやツツガムシの全てが病原体を保有しているわけではありません。病原体を保有したごく一部のマダニやツツガムシに刺されることで感染します。

患者の発生状況

日本紅斑熱

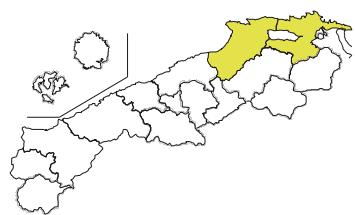
日本紅斑熱は、西日本で多い傾向にあります。

島根県では、2013年以前は、出雲圏域で集中して発生していましたが、2014年以降、県内広い地域で発生するようになります（図1）、患者数が急増しています（図3）。

3月から11月までの期間に発生しており、特に9月に多い傾向にあります（図4）。

図 1: 島根県における日本紅斑熱患者発生地域の変遷

~2013年



~2024年

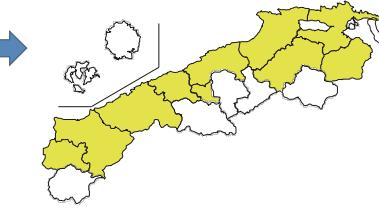
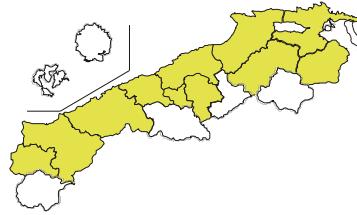


図 2: 島根県における SFTS 患者地域



黄色で色塗りされた地域が、患者発生地域

黄色で色塗りされた地域が、患者発生地域

つつが虫病

つつが虫病は北海道を除く、都府県で発生しています。

島根県の患者発生地域は、主に東部から西部の中国山地沿いに発生しています。

島根県での年間の患者発生数は、0 ~ 10人前後です(図3)。

島根県では、ツツガムシのふ化時期である3月～5月と、11月から12月に多い傾向があります(図4)。

SFTS

SFTSは、日本国内では2012年に1例目の発生が確認された新しい感染症です。

患者発生は、西日本を中心に確認されていますが、徐々に東日本でも患者が発生しています。

島根県では、広い地域で患者が発生しており(図2)、2016年以降は、患者が毎年発生しています(図3)。

2月～11月に患者が発生し、特に6月に多い傾向にあります(図4)。また、冬の2月にはネコからヒトへの感染疑い例が発生しています。

図3: 島根県における年別のダニ媒介感染症発生状況

(例)

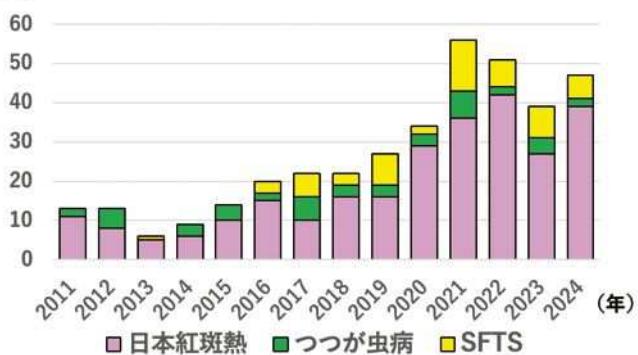
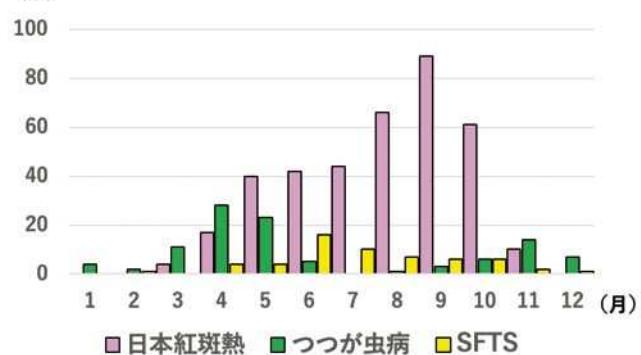


図4: 島根県における月別のダニ媒介感染症発生状況

(例)



日本紅斑熱とつつが虫病の症状と治療

感染後症状ができるまでの潜伏期間は日本紅斑熱で2日から8日間程度、つつが虫病で5日から2週間程度です。

日本紅斑熱とつつが虫病の症状はよく似ており、発熱、体幹・手足の発疹、リンパ節の腫脹などを伴います(写真3)。

日本紅斑熱とつつが虫病に有効な治療薬は、テトラサイクリン系の抗生剤です。しかし、治療が遅れると重症化し、死亡例も確認されています。

写真3: 日本紅斑熱、つつが虫病の症状



●つつが虫の発疹



●日本紅斑の発疹



●つつが虫の刺し口



●マダニ類の刺し口

馬原医院 馬原文彦氏 写真提供

SFTS の症状と治療

感染後症状がでるまでの期間は、6日から2週間程度です。

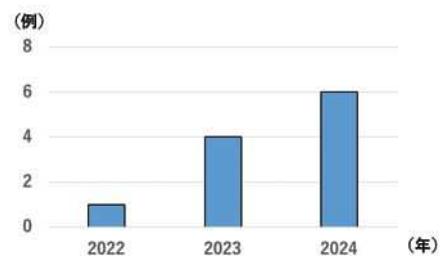
SFTS の症状は、発熱、下痢・嘔吐などの消化器症状の他、血液検査で、血小板減少や白血球減少などの症状を引き起します。

重症例が多く、死亡率は27%とされています。

SFTS は、2024年から治療薬としてファビピラビルが承認されました。



図5: 島根県におけるイヌ・ネコの SFTS 発生状況



ペットのマダニ対策

SFTS のマダニ以外の感染経路として、ウイルスに感染したイヌやネコとの接触も考えられるようになっています。

島根県では、2024年末までに11例のイヌ・ネコのSFTS症例の発生を確認しています(図5)。

大切なペットへのマダニ対策を行いましょう！

- 動物病院での定期的な駆除薬の投与
- ブラッシング、シャンプーなどによるマダニの除去
- ネコの室内飼育の徹底

ダニに刺されないための対策

●屋外で活動する際は、ダニに刺されないよう次のことに注意してください。

「虫よけスプレー」を、使用してください！



- ・スプレーの効能に「マダニ」の記載があれば、予防が可能です。
- ・長時間作業する際は、塗り直しが必要です。数時間毎に塗り直してください。

もし、刺されてしまったら・・

- ・吸血中のマダニを手で取り除くと、マダニの体の一部が皮膚の中に残ってしまい、化膿することがあります。自分で取り除かずに皮膚科などの医療機関を受診しましょう。
- ・ダニが媒介する感染症は、刺されてから数日～2週間で発症することが多いので、この期間は体調の変化に注意してください。発熱、発疹、消化器症状などの症状がでたらすぐに医療機関を受診し、ダニに刺されたことを伝えましょう。

「ダニに刺されない服装」にしましょう！



- 帽子をかぶる
- 手袋
- 長袖・長ズボン
- 首を出さない
- ズボンを靴の中に

・できるだけ皮膚が出ない服装を心がめましょう
※夏季は熱中症にも注意が必要なため、できる範囲での対応としてください。

「屋外での活動後は入浴、衣類の洗濯」をしましょう！



- ・作業した衣類にはダニが付着していることがあるため、洗濯をしましょう。

島根県保健環境科学研究所

〒690-0122

松江市西浜佐陀町582-1

TEL 0852-36-8181

FAX 0852-36-8171

E-Mail hokanken@pref.shimane.lg.jp